

**新しい時代を拓き、豊かな心で主体的・創造的にたくましく生きる子どもの育成
～自ら考え、解決する子どもを育てることにより学力向上を目指す授業づくり～**

稚内市教育研究会 小規模・複式教育部会

1. 研究主題など

(1) 研究主題

『新しい時代を拓き、豊かな心で主体的・創造的にたくましく生きる子どもの育成』
～自ら考え、解決する子どもを育てることにより学力向上をめざす授業づくり～

(2) 活動方針

- ①研究の深化環流蓄積が図られる体制づくり
- ②道へき複連盟研究計画及び稚内市学校教育推進の重点を踏まえた研究推進
- ③教育課程・各校研究・実践等の交流推進

(3) 体制・活動

- 低中高ブロック部会毎に、部長及び集合学習担当者をきめ運営にあたる。
- 各部会年間4回の部会研究を実施し、主題解明に向けた授業づくりの実践・交流を進める。
- 集合学習は東・西地区毎を基本とし計画的に実施し、東地区4校は低中学年社会見学、高学年宿泊研修行事を合同で行う。(5年度は修学旅行)
- 稚内市複式教育研究大会は、3年に1度の稚内市開催の管内研究大会に合わせて開催し、2校以上の会場校において授業公開・研究発表を行う。会場校以外の学校は研究大会開催への協力をする。

2. 令和5年度の活動

- 5月 総会・拡大運営委員会〔計画共有〕
宗複連複式実践講座
- 6月 低中高各部会研究・東地区集合学習・東地区合同修学旅行
- 8月 低中高各部会研究
- 9月 東地区合同社会・生活科見学
- 10月 東地区集合学習

11月 稚内市教育研究大会インフルエンザの流行のため中止)

2月 東地区集合学習(予定)

3月 拡大運営委員会〔総括〕(予定)

3. オンライン学習など ICT 活用状況

○インターネットでの調べ学習、ネット上の学習コンテンツ利用学習、クラスルームを介しての教材配付等、ジャムボード、Chrome アプリや機能の学習場面での利活用など、タブレットを使つての学習が部会各校で積極的に実践された。また、市でのロイロノート導入に向けた説明会も開催され、各学校で活用が始まっている。遠隔地での活用としては、近隣校とのオンライン学習ややむを得ず登校できない状況の児童・生徒に対するオンライン授業を行っている。教職員の各種議等でもテレビ会議を有効活用している。

4. 今後の方向性

- ・本年度末をもって増幌小中学校が閉校となり、市の小規模複式教育部会は5校となる。組織体制や活動方法など様々な改善が今後必要となる。また、これまでの活動を精査し、見直しや方法について検討する場面が多く見られる。令和の日本型教育が叫ばれ、2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手となる子どもたちを育成するために、教育課程やカリキュラムなど改革を進めていかなければならないと考える。小規模複式学級の特性を生かし、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改革を進めていくために、実践研究をつなげ、充実させていく。